

多摩（東京都）薬々連携協議会における活動報告

阿部宏子¹、上村直樹²、斉藤伸介³、坂本康典⁴、下平秀夫⁵、根岸務⁵、等淳一郎³、堀博昭⁵、前田良廣⁶、村田和也⁷、茂木徹⁵、山田哲道³、山田政人³、吉尾隆⁸、明石貴雄⁹、戸塚淳逸³

¹ 恩方病院薬剤部、² 東京都薬剤師会北多摩支部、³ 東京都薬剤師会南多摩支部、⁴ 国家公務員共済組合連合立川病院薬剤部、⁵ 東京都薬剤師会八王子支部、⁶ 青梅市立総合病院薬剤部、⁷ 日本医科大学付属多摩永山病院薬剤部、⁸ 桜ヶ丘記念病院薬剤部、⁹ 東京医科大学八王子医療センター薬剤部

【はじめに】平成 14、年 4 月多摩薬々連携協議会が発足した。構成は多摩地区の基幹病院 6 施設の病院と南多摩地区運営協議会を基盤とした保険薬局の薬剤師で組織されている。現在の活動として連携のための組織を作りながら課題を整理、企画を立案し、相互の理解を深める目的で合同の研修会を実施している。当地区の薬々連携の現状と展望についてここに報告する。

【設立の経緯】

1. 病院薬剤師の立場から

平成 12 年、東京都病院薬剤師会に多摩西南支部と多摩東支部が設立された。理由として薬剤師研修会に同じ東京都とはいえ、参加するのに 1 時間以上かかる多摩地区の病院薬剤師はなかなか出席することができない。そこで多摩地区でも独自の勉強会を開催できるようにと 2 支部が設立された。その後、地域での勉強会を開くならば同じ地区内の保険薬局にも呼びかけた。

2. 保険薬局の立場から

南多摩地区では平成 4 年に八王子・日野・町田の薬剤師会の保険薬局と地域の中核病院とで「南多摩地区運営協議会」を発足した。多摩地区は東京都の中でも特に医薬分業が進展している地域であり、日常の処方せん業務の適正化や薬剤師の地域医療への貢献には病院薬剤師とのより強い連携が必須であるとの認識を持った。そのような経緯から、地区薬剤師会、病院薬剤師会に呼びかけ、双方の思惑が一致し、多摩薬々連携協議会が設立された。

【活動の現状】問題を克服するための具体的な対策を検討する目的で、1. 適正な処方せんと正確な調剤 2. 患者情報の共有化としてお薬手帳の利用 3. 研修・教育の 3 班を組織化した。同じ地域内の病院薬剤師、保険薬局が合同勉強会を開催し、適正な処方せんと正確な調剤および患者情報の共有化を課題に活動している。

【今後の展望】多摩地区の薬々連携協議会はまだ連携としては初期の段階であり、課題も多い。しかし、まず同じテーブルについたことに意義が大きいとの認識で一致している。じっくり時間をかけてお互いを理解し、問題の発掘と解決に向けての方針も決めていかなければならない。最近の連携活動として合同研修会を実施し、薬々連携の意義や活動を紹介しながら、会員各位の意識の向上を図って行きたいと考えている。